

## 教育委員会等のホームページで公開されている 社会性と情動の学習プログラム等の分析

An analysis of social and emotional learning programs on the websites  
of boards of education

泉 徳 明

Noriaki IZUMI

(福岡教育大学大学院

教育学研究科教職実践専攻

生徒指導・教育相談リーダーコース／

北九州市立足立小学校)

小 泉 令 三

Reizo KOIZUMI

(福岡教育大学教職実践講座)

(平成27年9月30日受理)

本研究は、47都道府県および20政令指定都市の教育委員会および教育センターのホームページを参照し、公開されている社会性と情動の学習プログラム等(社会的能力を育成するプログラムや予防・開発的な教育活動)を分析し、全体の傾向と今後に期待されることを明らかにすることを目的とした。学習プログラム選定の結果、34都道府県市の46プログラムが収集された。収集された学習プログラムを(1)対象者・開始年度、(2)学習プログラムの目的、(3)学習プログラムの内容、(4)年間計画・指導案、(5)効果測定・成果報告という観点で整理・検討したところ、豊かな人間関係や夢や希望などの意欲を育てる教育に力が入れられており、そのために主にソーシャルスキルトレーニング(SST)が活用されていることが明らかになった。一方、各自治体が独自に学習プログラムを提案している意図が明確でない、学習プログラムの構造が不明瞭である、成果報告が十分でないといった課題も見出された。

キーワード：社会性と情動の学習、学習プログラム、学校適応、ソーシャルスキルトレーニング、インターネット

### 1 問題と目的

#### (1) 生徒指導上の諸問題の動向

文部科学省による平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では、26年度の小中高校生による暴力行為の発件数が54,242件であることが明らかとなった。ここ5年間の推移を見ていくと、22年度の約6万件から減少しつつも、約5万5千件程度で推移している。中学生では、22年度の約4万3千件から徐々に減り、25年度に4万件を再び超えた後、26年度には約3万6千件となった。高校生では、約1万件から徐々に減り続け、26年度には約7千件であった。注目すべきは小学生で、22年度の約7千件から上昇を続け、26年度には11,468件に上り、統計開始以来過去最多の件数を記録した。26年度の調査をさらに見ていくと、加害児童数は、前年度と比べて小6が減少したのに対し、小1と小2が約1.2倍となり、暴力行為の低年齢化がうかがえる。

また、不登校の件数は、小学生はここ10年ほど約2万3千人程度で推移していたものの、25年度には約2万4千人、26年度には約2万6千件と大きく上昇している。中学生は24年度には約9万1千人であっ

たのに対し、25年度は約9万5千人、26年度は約9万7千人と2年連続で増加している。26年度の調査をさらに見ていくと、小6の8,515人に対して中1の23,960件と急増しており、いわゆる中1ギャップと呼ばれる中学校での不適応が見られる。その背景として、不安など情緒的混乱や友人関係上の問題からくる学校不適応、無気力、親子関係などの家庭問題などが指摘されている(文部科学省, 2015)。

#### (2) 社会性と情動の学習とは

小泉(2011)による社会性と情動の学習(social and emotional learning)は、社会性を育成するためのスキル学習という今後の生徒指導・教育相談の在り方を示唆するものであると考える。イライアスら(1999)は社会性と情動の学習を、「子どもや大人が対人関係に関するスキル、態度、価値観を発達させる過程」であり、学齢期のみならず一生続く学習過程として定義している。そして、かつては家庭や地域を中心に日常生活の中で自然に身に付いていた社会的能力を、学校で意図的・計画的に育てていくことをねらいとしている(北野・角谷・池田, 2012)。

社会的能力の育成に関しては、これまでに様々な学習プログラムが開発・実施されている。生徒指導提要（文部科学省，2010）にも代表的な学習プログラムとして、グループエンカウンター、ピア・サポート、ソーシャルスキルトレーニング（SST）、アサーショントレーニング、アンガーマネジメント、ストレスマネジメント、ライフスキルトレーニング、キャリアカウンセリングなどの手法が紹介されている。また、道徳、キャリア教育、防災教育、非行防止教育などの教育活動が、学校の実態に応じて実施されてきた。本研究では、これらの手法や教育活動を予防・開発的な取組として位置付け、「社会性と情動の学習プログラム等」とする（以下、学習プログラムと呼ぶ）。

### (3) 本研究の目的

様々な学習プログラムを学校現場に導入する際、現場の教員は、学習プログラムの実践に必要な情報を入手する必要がある。その方法として、まず、関連する書籍の購入があり、先に述べた学習プログラムを紹介する多数の書籍が入手可能である。次に考えられるのが、教育センター等が実施する研修への参加である。越・安藤（2013）は、教育センターを対象とした調査で、学習指導要領と関連する内容以外にも、子どもの人間関係に関する学習プログラムの研修が多数実施されていることを報告している。

以上のような方法以外に、より簡単な情報の入手手段として、インターネットの利用による情報の検索がある。インターネットを利用する際、学習プログラムの名称等から検索することもあるが、教員が所属する自治体の教育委員会や教育センターのサイトを参照し、自治体独自で取り組む学習プログラムの情報を入手することもある。学習プログラムの内容によっては、簡単に情報が入手できる場合もあるであろうが、入手できない場合、他の自治体のサイトを探したり、試行錯誤して様々な関連語句で検索を続けることになる。そこで、全国の自治体が情報を公開している学習プログラムの動向が分かれば、利用者としても便利であると考えられる。

本研究では、教育委員会等のホームページで公開されている学習プログラムの情報を整理し、これらの情報を求めている者が、直面する諸問題に対応した情報を容易に入手することができるように、学習プログラムの傾向を分析することを目的とする。

## 2 方法

### (1) 学習プログラムの収集

学習プログラムの検索では、47都道府県及び20政令指定都市の教育委員会及び教育センターのホームページを参照した。まず、各サイトを順に検索し、学習プログラムに関わる情報を収集した。次に、検索の精度を上げるために、検索サイト Google ([http://](http://www.google.co.jp)

[www.google.co.jp](http://www.google.co.jp)) を利用し、都道府県名（政令指定都市名）（例、「福岡県」「北九州市」）に加えて「生徒指導」「教育相談」「社会性と情動」「社会的スキル」「プログラム」の語句で検索を行い、より多くの情報を収集できるように試みた。

検索の候補に挙げられたプログラムの中から、予防・開発的な内容であることを基準に選定を行った。その際、①年間計画、②指導案、③効果測定、④成果報告のうち、少なくとも一つ以上有するプログラムのみ選定し、名称のみなど具体的な内容が判断できないものは除外した。また、危機介入などに留まる実践も除外した。道徳やキャリア教育などについては、個別にその内容を精査し、実践内容が学習プログラムの内容に該当するかどうかを筆者が判断した。

その結果、対象プログラムとして、2015年9月20日の時点において、34都道府県市の46学習プログラムが収集された（表参照）。

### (2) 学習プログラムの整理

①年間計画、②指導案、③効果測定、④成果報告については、その内容の具体性により3段階（よく示されているものを◎、ほぼ示されているものを○、示されていないものを△）で判定を行った。

①年間計画については、校種別または学年別のものが記載されていれば◎、特定の校種のみ、または作成上の留意点のみなどの場合は○とした。記載がないものについては△とした（△については、以下の②～④も同様）。②指導案については、校種別または学年別の指導案もしくは指導解説が記載されていれば◎とした。児童生徒用のワークシートのみや、指導案のない実践事例、また全体を通して1本しか記載がないもの、あるいは別冊資料（サイト上では内容が確認できないもの）については○とした。なお、掲載してある指導案の本数も記録した。③効果測定については、検査用紙と検査ツールが両方あるものを◎、検査用紙のみや検査項目のみのは○とした。④成果報告については、効果測定の結果や実践事例、成果と課題などが記載されているものを◎とした。○は使用しなかった。

## 3 結果と考察

今後の実践及び研究の参考となるよう、(1)対象者・開始年度、(2)学習プログラムの目的、(3)学習プログラムの内容、(4)年間計画・指導案、(5)効果測定・成果報告についてまとめる。

### (1) 対象者・開始年度

対象者を校種別に見ると、保育園1、幼稚園3、小学校44、中学校40、高等学校23、特別支援学校10となった（のべ数）。小学校での実践が最も多く、低年齢のうちから予防・開発的な支援をしようとする各自治体のねらいが見えてくる。校種間の系統性を

見てみると、小・中・高にわたって同一プログラムを実施しているものが22、小・中での実施が17、保・幼・小での実施が1、各校種別個の実施が6（小4、中1、高1）となり、複数の校種を視野に入れたプログラムが全体の約87%であることが明らかとなった。

また、現在行われているプログラムの開始年度から継続年数を見たところ、最も長いプログラムが16年目、最も新しいプログラムが1年目となり、1～4年目が13、5～8年目が18、9～12年目が7、13～16年目が2、不明が6であった。このことから、この10年ほどの間に学習プログラムが作成されつつあることがうかがえる。

## (2) 学習プログラムの目的

学習プログラムの目的を内容別に分類すると、豊かな人間関係が12、夢や希望などの意欲が9、規範意識が8、いじめ防止が6、キャリア発達が4、自己肯定感が3、防災・減災が2、命の尊さ、心身の変化に対するセルフケア、自己指導能力、自己実現、非行防止、ストレスマネジメント、人権尊重、性教育がそれぞれ1ずつという結果になった（のべ数）。

豊かな人間関係が最も多く取り上げられているのは、文部科学省（2015）が暴力行為や不登校などの背景として述べている友人関係上の問題に対応したものと考えてよいであろう。また、夢や希望などの意欲に関しても、文部科学省（2015）が不安や無気力などを生徒指導上の諸問題の背景として述べていることから明らかである。この夢や希望などの意欲に関する項目では、キャリア教育における目的として述べられることが多かった。規範意識やいじめ防止についても、同様に考えてよいと思われる。それらに対して、キャリア発達や自己肯定感、命の尊さなど、個の内面に関わる内容が比較的少ないのが特徴である。同様の傾向は、越・安藤（2013）でも指摘されている。これは、イライアスら（1999）が学習プログラムを「子どもや大人が対人関係に関するスキル、態度、価値観を発達させる過程」と説明していることから考えると、納得のいく結果であるとも言える。

## (3) 学習プログラムの内容

プログラムを内容別に分類すると、SST（学級単位のものを含む）が18、キャリア教育が12、方法を限定しない総括的なプログラムが3、規範教育、非行防止教育、防災教育、質問紙調査がそれぞれ2、他の7つのプログラムはそれぞれ1ずつとなった（のべ数）。

SSTが最も多く取り上げられているのは、SSTが、学習プログラムの目的の中で最も多かった「豊かな人間関係」と密接に関連するプログラムであるためと考えられる。生徒指導提要（文部科学省、2010）によると、SSTは「仲間関係においてトラブルを起こしやすい児童が適切な仲間とのやりとりを学ぶ社会的技能

訓練」と説明されている。また、その目標として「相手を理解する」「自分の思いや考えを適切に伝える」「人間関係を円滑にする」「問題を解決する」「集団行動に参加する」ことが述べられており、生徒指導上の諸問題との関連性が明確であるところが、多く採用されている理由であろう。

キャリア教育では、4つの基礎的・汎用的能力「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」が示されている。この内容は、学習プログラムのねらいと一致するものが多い。このことから、今後我が国の学校における学習プログラムが、キャリア教育の一環として行われることが多くなるのではないかと予想する。

一方で、グループエンカウンターやストレスマネジメントなどがほとんど用いられていないことも特徴である。グループエンカウンターについては、学校で多く実践されており、その認知度は高いと報告されている（越・安藤、2013）。そのため、都道府県や政令指定都市レベルで新たな学習プログラムを提示する際、これには言及されていない可能性がある。ストレスマネジメントについては、保健の学習等で取り扱われているため、改めて取り上げることが少ないのであろう。

なお、学習プログラムの構成として、例えば宮城県の「絆づくりプログラム」のように、学級開き、自他のよさ、聞き方、話し方、協力、合意形成のような基本的な構造が明確になっていると、教員が理解しやすく、また各学校での実践に伴う学習プログラムの修正や追加等に都合が良いと考えられる。

## (4) 年間計画・指導案

年間計画を◎と判定したものは11、○と判定したものは13であった。教員が情報公開されている内容を参照し、実践に生かそうとする場合、この年間計画は大きな意味をもつ。すなわち、教員は、プログラムの系統性や各教科との関連性、実施時期などの一覧を基に、プログラムの有効性を判断し、具体的な指導案の検討に移る。その点で、具体的な指導案がセットされているプログラムは、情報を求めている教員にとって有効な手立てとなるであろう。

指導案を◎と判定したものは12、○と判定したものは21であった。○と判定したものの中には、児童生徒用に使用できるようなワークシートや副読本を記載しているものもあった。しかしながら、具体的な活用方法の説明や指導案によって学習のねらいを詳細に理解することができない場合、その情報を活用することは難しい。その点で、校種別に多くの指導案（具体的な活動例）を記載しているプログラムは、参考となる。

以上の年間計画と指導案のどちらも◎と判定したプログラムは、北海道、宮城県、千葉県、新潟県、大阪府、兵庫県、札幌市、千葉市、横浜市の9件であった。



掲載されている指導案の本数も多く（平均 47 本）、参考となる情報が豊富である。

#### (5) 効果測定・成果報告

効果測定を◎と判定したものは 6、○と判定したものは 8 であった。◎と判定したのものには、具体的な検査項目が分かる検査用紙と、一定の尺度の下で判定が可能な検査ツールが記載されており、すぐに用いることができるようになっている。もちろん、検査項目や尺度については学校の実態や学習内容によって検討する必要があるが、個人の状態が数値や図で表される検査ツールは、指導のための具体的な資料として有効である。○と判定したもののほとんどが、検査用紙のみの記載であった。その検査用紙をどのように活用し、どのように見取れば個の変容をとらえることができるのか、といった点までの記載が期待される。

成果報告を◎と判定したものは 17 であった。内訳を見ると、実践事例の報告が 9、効果測定の結果が 6、成果と課題が 2 となった。効果測定が◎または○のものに関連しているものの数を見ると、実践事例の報告で 2、効果測定の結果で 5、成果と課題で 1 となった。効果測定の内容を記載しているプログラムのほとんどが、成果報告において効果測定の結果を公開している。

プログラムの実施によって児童生徒がどのように変容したのかを数値で示すことによって、成果をより客観的に見ることができる。その点で、今後はプログラム内容に応じた適切な効果測定法の開発と、その成果報告の積極的な公開が望まれる。

#### 4 まとめ

本研究では、学習プログラムの情報を求めている教員が、直面する諸問題に対応した情報を容易に入手することができるように、学習プログラムの傾向を検討することを目的として、教育委員会等のホームページで公開されている学習プログラムの情報を概観し、整理してきた。

学習プログラムの傾向を検討していく中で、わが国の学校における学習プログラムの特徴が見えてきた。具体的には、豊かな人間関係や夢や希望などの意欲を育てるための教育に力を入れており、そのために SST が主に活用されていることである。また、そのような学習プログラムは、多くの自治体において小学校段階から計画されており、中学校・高等学校へと連続的に学習が繋がっているものも多数見られた。

ここで、ホームページを利用する立場から考えると、年間計画、指導案、効果測定、成果報告の全ての情報が含まれていると、学習プログラムの導入が容易であろう。特に、どの程度の学習時間を、どのような教育課程に位置付けて実施すれば効果的なのかといった情報が有益である。また、学習プログラムの基本的な構

造や、さらには背景となる理論の詳しい紹介があると、形式的な実践に終わることなく、学校内での継続と定着、さらには学習プログラムの改善が進むであろう。

本研究を終えるにあたり、上では述べることができなかったが、今後の課題について 2 点述べる。

第 1 に、都道府県・市独自で学習プログラムを設定し、実践している意図を明確に示すことである。言い換えるならば、各自治体が課題と捉えている児童生徒の現状と、それに対応した学習プログラムの位置付けをより明確にすることで、該当自治体の教員のみならず、課題意識を感じて情報を求めている教員にとって有益となるであろう。また、それとともに成果報告の充実も課題である。どのような指導によって効果が出たのか、または何が足りないのか、自治体レベルで検証することにより、自治体だけにとどまらずわが国全体の教育の向上につながっていくものと考えている。

第 2 に、サイトの構成の充実である。横浜市の「子どもの社会的スキル横浜プログラム」のサイトでは、学習プログラムの目的・内容、年間計画、指導案、効果測定、成果報告等の項目が配置され、必要な情報に容易にアクセスできる。学習プログラムの情報を公開する目的は、当該自治体の教員だけではなく、他の自治体の（あるいは外国の）教員に対しても有益な情報を提供することである。保護者・地域の住民に対する情報公開という役割も担う。これらのことを踏まえ、公開内容の充実とともに、サイトの構成の充実も望みたい。

今後、学習プログラムの実践的な研究を行う際には、本研究における課題を踏まえ、成果報告の充実、すなわち、児童生徒の変容を正確に見取ることのできる効果測定法の開発に重点を置く必要がある。

#### 引用文献

- イライアス,M.J.・ジンズ,J.E.・ワイスバーグ,R.P.・フレイ,K.・グリーンバーグ,M.T.・ハynes,N.M. 小泉令三（編訳） 1999 社会性と感情の教育－教育者のためのガイドライン 39－ 北大路書房
- 北野和則・角谷美恵子・池田隆 2012 対人関係能力と自尊感情を育成する生徒指導の在り方に関する研究 広島県教育センター
- 小泉令三 2011 社会性と情動の学習（SEL-8S）の導入と実践 ミネルヴァ書房
- 越良子・安藤美華代 2013 日本の学校における予防教育の現状と課題 山崎勝之・戸田有一・渡辺弥生（編著）世界の学校予防教育—心身の健康と適応を守る各国の取り組み 金子書房（pp 263-280）
- 文部科学省 2010 生徒指導提要
- 文部科学省 2015 平成 26 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について

表 教育委員会等のホームページで公開されている社会性と情動の学習プログラム等

番号	都道府県	プログラム名	目標	内容	校種	年度	年間計画	具体的内容	指導案	具体的内容	掲載本数	効果測定	具体的内容	成果報告	具体的内容
1	北海道	いじめ未然防止モデルプログラム	いじめ防止	CSST	小中高	26年度～	◎	月ごとの大枠	◎	活動例(概要)	小/17 中/15 高/15 補足/6	△		◎	指導事例報告
2	青森県	キャリアノート	意欲の喚起	キャリア教育	小中高	不明	○	プログラムと教育課程の関連表	○	ノートの記述例	小/16 中/12 高/12	○	ふりかえりワークシートのみ	△	
3	岩手県	いわて子どものこころのサポート	心とからだの変化や反応に対するセルフケア	ストレスマネジメント	小中高	24年度～	△		◎	具体案(小1～小3, 小4～小6, 小6, 中・高)スライド/7 図表資料	小1～3/1 小4～6/1 中・高/1 スライド/7	◎	検査用紙 検査ツール	△	
4	宮城県	みやぎの志教育プラン	キャリア発達	キャリア教育	小中高	23年度～	○	作成例(中学校のみ)	○	別冊(参考指導事例集)	記載なし	△		◎	実践事例
5	宮城県	MAP みやぎアドベンチャープログラム	豊かな人間関係	PA(プロジェクティブアドベンチャー)	小中高	12年度～	△		◎	教科ごとの具体案(校種別):アクティビティの具体例	小/6 中/7 高/6 アクティ/8	△		△	
6	宮城県	「絆づくり」プログラム	豊かな人間関係	CSST	小中高	26年度～	◎	指導時期 アソシエーション 実施時期	◎	具体案(校種別)ワークシート	小/6 中/6 高/6	◎	検査用紙 検査ツール	◎	研究報告書
7	秋田県	あきたでドリーム(AKITA de DREAM)	キャリア発達	キャリア教育	小中高	不明	△		○	ワークシート	小/17 中/9	△		△	
8	福島県	生きる力を育てる授業実践プログラム	自己肯定感 豊かな人間関係	CSST	小中高	不明	△		◎	具体案(校種別)ワークシート	小/10 中/9 高/6	△		◎	実践事例
9	群馬県	万引防止プログラム	規範意識	非行防止プログラム	小	22年度～	△		◎	具体案	小/6	△		△	
10	群馬県	群馬県中学校非行防止プログラム	非行防止	非行防止プログラム	中	19年度～	△		◎	具体案	中/6	△		△	
11	千葉県	豊かな人間関係づくり実践プログラム	豊かな人間関係	CSST	小中	19年度～	◎	学年別	◎	具体案(学年別)ワークシート(学年別)	小/24 中/12	△		◎	実践の経過
12	東京都	いじめ防止教育プログラム	いじめ防止	CSST	小中高特	25年度～	○	指導案上に記載	◎	具体案(小1・2, 小3・4, 小5・6, 中, 高, 特)ワークシート(同上)図表資料	小/12 小3・4, 小5・6, 中, 高, 特/4 ワークシート/4	△		△	

SST: ソーシャルスキルトレーニング CSST: 学級単位での SST

(表の続き)

番号	都道府県	プログラム名	目標	内容	校種	年度	年間計画	具体的内容	指導案	具体的内容	掲載本数	効果測定	具体的内容	成果報告	具体的内容
13	山梨県	しなやかな心の育成プロジェクト	豊かな人間関係	CSST	小中高	24年度～	△		○	別冊(道徳教育アクションプラン)	記載なし	△		△	
14	山梨県	小・中・高等学校における体系的なキャリア教育推進の手引き	豊かな人間関係	キャリア教育	小中	23年度～	○	教育課程編成の留意事項	◎	具体案(学年別)	小/6 中/4 高/6 特/5	△		△	
15	新潟県	いじめ防止学習プログラムの手引き	いじめ防止	ピース・メソッド	小中高	12年度～	◎	学年別	◎	具体案	小/8 中/10	○	検査用紙	△	
16	新潟県	新潟っ子プラン	意欲の喚起	キャリア教育	小中高	23年度～	○		○			◎	検査用紙 検査ツール	△	
17	福井県	夢カルテ	意欲の喚起	キャリア教育	小中	不明	△	作成例(中学校のみ)	○	ワークシート	小/8 中/7	△		△	
18	静岡県	人間関係づくりプログラム	ストレスマネジメント 豊かな人間関係	CSST	小中	20年度～	○		○	プログラム冊子 ※職員限定	記載なし	○	検査用紙 検査ツール ※職員限定	◎	効果測定
19	静岡県	未来 map みらいマップ Jr.	意欲の喚起	キャリア教育	小中	24年度～	△	学年別・全校プログラム	○	ワークシート	※副読本 小/64p 中/89p	△		△	
20	愛知県	自己有用感を高める絆づくりプログラム	自己肯定感	CSST	小	20・21年度	◎	プログラム系統表	◎	実践事例	小/4	○	検査用紙	◎	検証結果
21	愛知県	夢を見つけた夢をかなえる航海ノート	意欲の喚起	キャリア教育	小中高特	23年度～	○	プログラム系統表	◎	具体案(学年別) ワークシート(学年別)	小/12 中/15 WS/小23, 中28 高17, 特6	△		△	
22	三重県	育てようソニーチャルスを学校で	豊かな人間関係	SST	小中特	20年度～	△		○	指導事例	小/2 中/3 特/1	△		△	
23	大阪府	夢や志をはぐくむ教育	意欲の喚起 規範意識	キャリア教育	小中	22年度～	◎	学年別	◎	具体案(学年別)	副読本/小2, 中14 キャリアア/小13, 中17	△		△	
24	大阪府	16才からの“シューカッツ”教本第1部「キャリア教育ワーク集」	キャリア発達	キャリア教育	高	23年度～	△		○	ワークシート	※副読本 高/132p	△		△	

SST：ソニーチャルスをキルトトレトレーニング CSST：学級単位での SST

(表の続き)

番号	都道府県	プログラム名	目標	内容	校種	年度	年間計画	具体的内容	指導案	具体的内容	掲載本数	効果測定	具体的内容	成果報告	具体的内容	
25	都道府県	いじめ未然防止モデルプログラム	いじめ防止	CSST	小中高特	26年度	○	プログラム系統表	◎	具体案(学年別)ワークシート(学年別)	小/12 中/10 高/7 特/5	△		△		
26	兵庫県	心の健康教育プログラム	いじめ防止意欲の喚起	CSST	小中	23年度	◎	校種別	◎	具体案(学年別)ワークシート	小・中/16	△		△	実践事例	
27	兵庫県	『命の大切さ』を実感させる教育プログラム	命の尊さ	総合的なプログラム	小中高特	18～21年度	△		◎	具体案(学年別)	小/31 中/17 高/13 特/3	○	検査項目	◎		実践事例
28	兵庫県	キャリアアノート	意欲の喚起	キャリア教育	小中	27年度～	○	年間計画作成の手順	◎	ワークシート(学年別)(教師用解説)	小/18 中/16	△		△		取組の成果
29	鳥根県	しまねのふるまい推進プロジェクト	規範意識	規範教育	小中高特	22年度～	△		○	ワークシート(5歳児, 小1)	5歳/3 小1/7	△		◎		
30	岡山県	おかやまの子ども生活信条カルタ	規範意識	カルタ	保幼小	25年度～	△		○	具体案(1本のカルタのテーマ)	小/1	△		△		
31	山口県	心を耕す	いじめ防止	CSST	小	20年度～	△		◎	具体案(低・中・高)	小/30(各10)	△		△		
32	香川県	小学校問題行動等防止プログラム	規範意識意欲の喚起	CSST	小	23年度～	○	「スクールプログラム」作成の手順	○	実践事例	小/27	△		◎		21・22年度の調査結果
33	佐賀県	学校におけるソーシャルスキングに関する活動プログラム	豊かな人間関係	SST	小中高	22・23年度	△		◎	具体案(校種別)ワークシート	小/12 中/12 高/12	◎	検査用紙 検査ツール	◎		成果と課題
34	長崎県	望ましい人間関係を育む指導の在り方	自己肯定感	総合的なプログラム	小中高	19年度～	△		○	実践事例	資料/25 小/2 中/2 高/2	△		◎		実践事例
35	鹿児島県	学校楽しいーと	自己指導能力	CSST アンケート及び観点的対応	小中高	不明	△		○	具体案(抜粋)	小/1 中/2 高/2	◎	検査用紙 検査ツール	△		
36	札幌市	性教育の手引	人権尊重性教育	性教育	幼小中高特	18年度～	◎	学年別	◎	具体案(学年別)図表資料	幼/2 小/9 中/5 高/2 特/2	△		◎		授業公開・実践事例、研究協議の成果

SST：ソーシャルスキング CSST：学級単位での SST

(表の続き)

番号	都道府県	プログラム名	目標	内容	校種	年度	年間計画	具体的内容	指導案	具体的内容	掲載本数	効果測定	具体的内容	成果報告	具体的内容		
37	都道府県 仙台市	新防災教育副読本 たくましく生きる 力育成プログラム	防災・減災	防災教育	小 中	25年度～	○ 小1～3, 小4 ～6, 中 ※必要パスワー ド	◎ 具体案・実践 事例(小1～3, 小4～6, 中)	◎	◎ 具体案・実践 事例(小1～3, 小4～6, 中)	資料/小低 30, 小高30, 中30 小低/19 小高/24 中/17	△	△	△	△	△	
38	仙台市	たくましく生きる 力育成プログラム	豊かな人間関係	CSST	小 中	不明～継 続中	○ 年間指導計画 とプログラムの 関連について	○ 別冊(プラン 集)	○	○ 別冊(プラン 集)	記載なし	△	△	△	△	△	
39	さいたま市	人間関係プログラ ム 小・中一貫「潤 いの時間」(教育 特区)	豊かな人間関係	構成的グルー プエンカウ ンターサ ーシヨン トレーニング	小3 ～ 中1	17年度～	△	○ 実践事例(抜 粋)	○	○ 実践事例(抜 粋)	小/3	○	○ 検査項目 尺度因子	◎	◎ 効果測定 の結果	◎ 効果測定 の結果	
40	さいたま市	規律ある態度	規範意識	質問紙法調査	小 中	23年度～	△	○ ワークシート	○	○ ワークシート	小/3 中/1	○	○ 検査用紙	◎	◎ 質問紙調査結 果	◎ 質問紙調査結 果	
41	千葉市	キャリア教育の手 引	キャリア発達	キャリア教育	小 中 高	25年度～	◎ 学年別	◎ 具体案(学 年別) ワークシート	◎	◎ 具体案(学 年別) ワークシート	小/41 中/23 高/13	△	△	◎	◎ 実践事例	◎ 実践事例	
42	横浜市	子どもの社会的ス キル横浜プログラ ム	自己実現	CSST	小 中	19年度～	◎ 学年別	◎ 具体案	◎	◎ 具体案	全/119	◎	◎ 検査用紙 検査ツール	◎	◎ 検査用紙 検査ツール	◎ プログラム内 容の改定	
43	浜松市	はままつマナー	規範意識	規範教育	小 中	22年度～	△	○ ワークシート	○	○ ワークシート	※副読本 小低/14p 小高/14p 中/32p	△	△	△	△	△	△
44	大阪市	子どもの安全を守 るための防災・減 災指導の手引き	防災・減災	防災教育	幼 小 中 高 特	27年度～	○ モデルカリ キュラム(日 程指定なし)	◎ 具体案(学 年別)	◎	◎ 具体案(学 年別)	幼/5 小/29 中/4 高/1 特/2	△	△	△	△	△	△
45	広島市	規範性をはぐくむ ための教材・活動 プログラム	規範意識	総括的なプロ グラム	小 中	22年度～	△	○ 具体案(抜 粋)	○	○ 具体案(抜 粋)	小/1 中/1	△	△	△	△	△	△
46	北九州市	北九州市対人ス キルアッププロ グラム	豊かな人間関係	CSST	小 中 特	27年度～	◎ 前期(小1～ 4), 中期(小5 ～中1), 後期 (中2)	○ 具体案 ※職員限定	○	○ 具体案 ※職員限定	前期/32 中期/26 後期/20 特/15	○	○ 検査ツール 紹介	△	△	△	△

SST: ソーシャルスキルトレーニング CSST: 学級単位での SST